

事務事業評価票

番号	枝番号	事務事業名 「はればれ教室」事業	部名 教育委員会	課名 青少年センター	所属長名 垣内宏康
基本事項	基本政策	03 心豊かな人が育ち、いきいきと活躍できるまち	財務科目	会計	01 一般会計
	政策	01 人間力を培う教育環境の充実		款	10 教育費
	施策	03 青少年健全育成活動の推進		項目	05 社会教育費
				目	02 青少年センター費
<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 単年度		事業開始年度	平成8年度	完了予定年度	未定年度
<input checked="" type="checkbox"/> 経常 <input type="checkbox"/> 臨時					

事業の対象(誰に対して・何に対して)	事業の目的(どういう状態にしたいのか)
不登校児童生徒	指導支援により、不登校児童生徒の学校復帰や社会的自立ができるようになる。 自尊感情を高め、対人関係能力等を身につけ、学校復帰や社会的自立ができるようになる。
事業の内容(目的達成のための手段・方法)	
適応教室「はればれ教室」指導補助員1名(兵庫教育大学と連携)と教育相談員2名(教育相談員は教育相談事業の業務も実施)を配置し、以下の業務を行う。 教室運営、カリキュラム実施を行う。 「はればれ教室」として、施設、カリキュラムの提供を行うとともに、教職員OB、カウンセラー等によるこころのケアや社会的スキルの習得を指導支援していく。	
補助・単独: <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の補助金有り <input type="checkbox"/> 市単独	
<input type="checkbox"/> 義務実施事業	根拠法令要綱等
<input type="checkbox"/> 努力義務実施事業	根拠法令要綱等
<input checked="" type="checkbox"/> 任意実施事業	根拠条例等 西脇市青少年センター条例第3条、西脇市青少年センター条例施行規則
<input type="checkbox"/> 市単費上乗せ(またはの場合)	根拠条例等
正規職員が関与すべき法的義務性	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(該当業務:)
	法令名・根拠条文
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 補助・負担金 <input type="checkbox"/> その他()
	委託の場合: <input type="checkbox"/> 入札 <input type="checkbox"/> 随意契約(契約先:)

総合計画・行動計画 施策シート

優先度

A B C

	平成20年度(参考)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	以降
展開方針 (年度別の事業内容)					
総事業費	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
平成21年度の実施内容・成果		平成21年度の実施内容・計画どおり実施できなかった理由			
<input type="checkbox"/> 計画どおり進んでいる。					
<input type="checkbox"/> おおむね計画どおり進んでいる。					
<input type="checkbox"/> 着手しているが、計画よりも遅れている					
<input type="checkbox"/> 計画どおり着手していない。					
<input type="checkbox"/> 完了・達成(計画事業の終了)					
確認項目			市長指示事項等		
<input type="checkbox"/> 総合計画対象事業					
<input type="checkbox"/> 市長公約・懸案事項					
<input type="checkbox"/> 議会確認事項					
企画政策課 意見			行動計画掲載 <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C		

		単位	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
事務事業データ	事業費(予算額または見込額) (A')	千円	3,245	3,241	4,309	4,341	4,341
			特定財源	600	660	425	425
	一般財源		2,645	2,581	3,884	3,916	3,916
	事業費(決算額) (A)		3,136	3,185	4,018		
	特定財源		600	500	425		
	一般財源		2,536	2,685	3,593		
一般職員所要人員 (B)	人	0.04	0.04	0.04			
一般人件費[平均給与×(B)] (C)	千円	317	317	317			
総コスト[(A)+(C)] (D)	千円	3,453	3,502	4,335			
受益者負担額 (E)	千円						
受益者負担率[(E)/(D)] (F)	%	0.0%	0.0%	0.0%			

【1次評価】

評価実施:平成21年度

		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
活動指標	名称	開校日数	目標値	190日	190日	190日
	実績値	190日	190日	190日		
	説明	はればれ教室開校日数	単価	18千円	18千円	23千円
			達成度	100%	100%	
(目標)	名称		目標値			
	実績値					
	説明		単価			
			達成度			
成果指標	名称	生徒数	目標値			10人
	実績値	13人	16人	20人		10人
	説明	はればれ教室生徒数	単価	266千円	219千円	217千円
			達成度			
(目標)	名称	生徒数	目標値			10人
	実績値	5人	9人	12人		10人
	説明	不登校解消生徒数(高校進学者含む)	単価	691千円	389千円	361千円
			達成度			
評価ポイント	事業の優先度(緊急性)	5	事業の必要性	1	実施主体の妥当性	5
	直接のサービスの相手方	1	受益者負担の適切さ	5	市民ニーズの把握	5
総合評価	評価結果	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止				
	判断理由	<p>不登校児童生徒の出現率は増加傾向にあり、はればれ教室への入級も増えてきている。不登校の要因は一概にはいえない。思春期の不安定な児童生徒と密接に関わりながら、一人でも多く学校に戻れる対応をして必要がある。</p>				
総合評価	改善策	<p>高校へ行きたいという通級生の願いの実現、通級生が具体的な自分の目標を持つことへの支援、通級生への柔軟な対応の中にも生活ルールをつくり守るなかで、責任感・自立心・社会性をそだてていくとともに、保護者と指導員とのつながりを深めて、気軽に悩みや困っていることが話し合える環境をさらに充実させて、今後も継続して一人でも多く学校へ戻れる教室としていく必要がある。</p>				

【2次評価】

評価実施:平成21年度

		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
評価ポイント	事業の優先度(緊急性)	4	事業の必要性	1	実施主体の妥当性	5
	直接のサービスの相手方	1	受益者負担の適切さ	5	市民ニーズの把握	3
総合評価	評価結果	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止				
	判断理由	<p>当該事業については、不登校児童生徒に対応する嘱託職員及び補助員の人件費が大半を占めている。しかし、不登校児童生徒の対象者が増加していく傾向から、人件費の削減も現時点では困難となっている。</p> <p>不登校児童生徒に対する「こころのケア」を指導するには、指導員と補助員のコンビネーションも重要であり、当該児童との関わりや人間関係を形成する上で、補助員についても重要な役割を担っている。</p> <p>H20年度における不登校児20名のうち12名を進学、復学させた実績は現状の体制が機能した結果であると評価できる。</p>				
総合評価	改善策	<p>県からの補助金が年々減額されていく中で、財源を確保することは大きな課題であるため、関わりの大きい教育相談事業と一体化し、人件費の効率化を検討する必要がある。</p> <p>現在、有償の補助員について、ボランティア化には課題も多いが、兵教大との提携を更に深めて、ボランティア化も視野に入れて検討する必要がある。</p>				

【3次評価】

		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
総合評価	評価結果	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止				
	判断理由					
総合評価	改善策					